

広陵町地域公共交通活性化協議会（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

○地域特性

奈良盆地の中西部に位置し、東は三宅町及び田原本町、南は、橿原市及び大和高田市、西は香芝市、北は上牧町及び河合町と接している。奈良県の中心都市である奈良市へは直線距離約 20km、近畿圏の中核都市である大阪市へは約 30km の距離にある。

・人口

令和 5 年（2023 年）	35,159 人（令和 5 年 12 月末日現在）
令和 12 年（2030 年）	34,325 人（推計）
令和 22 年（2040 年）	33,272 人（推計）
令和 27 年（2045 年）	32,668 人（推計）

・面積

16.30k m²

・高齢化率

令和 5 年（2023 年）	26.9%（令和 5 年 12 月末日現在）
令和 12 年（2030 年）	28.8%（推計）
令和 22 年（2040 年）	32.3%（推計）
令和 27 年（2045 年）	33.2%（推計）
令和 37 年（2055 年）	33.6%（推計）

・小学校区毎の高齢化率（令和 5 年 12 月末時点）

広陵西小学校区	23.6%
広陵東小学校区	29.6%
広陵北小学校区	29.0%
真美ヶ丘第一小学校区	29.2%
真美ヶ丘第二小学校区	26.7%

高齢化率は、地域により差があるが、町全体としては、令和 37 年（2055 年）にピークを迎え（33.6%）となり、それ以降減少傾向となる。

※将来人口及び高齢化率は第 2 次広陵町人口ビジョンから引用

・産業構造（就業人口構成比）

第 1 次産業 1.7%、第 2 次産業 26.7%、第 3 次産業 71.6%

※令和 4 年度（2022 年度）広陵町決算カードから引用

○公共交通の現状

・鉄道

北部地域に近鉄田原本線の箸尾駅 1 駅のみであり、鉄道不便地域である。

・路線バス

真美ヶ丘地域を中心に 7 路線運行している（うち、高田新家線及び高田イオンモール線の 2 路線は運行費補助を行っている。）。

・変遷

平成 15 年度（2003 年度）	～平成 21 年度（2009 年度）	既存路線バスの休廃止
平成 21 年度（2009 年度）		コミュニティバス「広陵元気号」運行開始（デマンド）
平成 24 年度（2012 年度）		定時・定路線へ変更
平成 26 年度（2014 年度）		路線バスの運行費補助 （高田新家線、高田イオンモール線）
平成 28 年度（2016 年度）		広陵町地域公共交通網形成計画の策定、有償運行開始
平成 30 年度（2018 年度）		広陵元気号運行再編実施計画策定
令和元年度（2019 年度）		再編運行開始（支線の運行ルートの見直し、運賃改定）
令和 3 年度（2021 年度）		広陵元気号南部支線再編 （令和 3 年度（2021 年度）10 月から運行開始）
令和 3 年度（2021 年度）		広陵町地域公共交通計画策定
令和 5 年度（2023 年度）		広陵元気号再編（令和 5 年 7 月から運行開始） （北部・南部支線を廃止し、予約型乗合バス「のるーと 広陵元気号」の導入）
令和 5 年度（2023 年度）		広陵町地域公共交通利便増進計画策定

○将来像

「～笑顔で出かけられるまち～」

誰もが移動に不満・不安を感じることなく目的を達成できるまちをめざす。

○基本方針

方針 1：安全・快適で実用的な公共交通網の形成

方針 2：環境にやさしく、健康な移動手段である公共交通の利用促進

方針 3：住みたい・暮らし続けたい広陵町を支える公共交通網の形成

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添のとおり

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

○評価の基本的な考え方

P D C A サイクルによる評価、改善の仕組みを実施する。また、評価は、広陵町地域公共交通網形成計画（以下「網形成計画」という。）で定めた数値目標と実績値の比較に加えて、各事業の実施状況の成果についても対象とする。

網形成計画については、令和 3 年度（2021 年度）に計画期間が終了したため、最終評価及び検証を行った。

令和 4 年度（2022 年度）以降は、「広陵町地域公共交通計画」で定めた数値目標と実績値の比較に加えて、各事業の実施状況の成果についても対象とする。

○評価の実施主体

広陵町地域公共交通活性化協議会

○事業の実施方法及び目標達成状況の評価

・各事業の実施状況を毎年度評価する。実施スケジュールに対して的確に実施しているかどうか、どのような実施効果があったか、改善すべき事項などについて毎年度評価する。

・目標値との比較により、施策の達成状況を検証する。アンケートが必要な項目については、総合計画の施策評価実施時等にあわせて実施する。

・利用状況や目標達成状況を踏まえ、達成状況が順調でないと判断される場合には、その原因を探り、改善策等を検討・実施する。必要に応じてバス交通のルート、ダイヤ、運行方法等を見直し、改善を図る。

・令和３年度（2021年度）が網形成計画の最終計画年次であるため、網形成計画に定めた全ての事業の実施状況及び目標の達成状況について、最終評価及び検証を行い、その内容を踏まえて「広陵町地域公共交通計画」を策定した。

○評価・改善スケジュール

令和３年度（2021年度）が網形成計画の最終計画年次であり、平成30年度（2018年度）には中間の評価・改善を行い、令和３年度（2021年度）には最終評価を行い、当該計画を更新するかたちで、広陵町地域公共交通計画を策定した。

○広陵町地域公共交通計画の評価項目と目標値

別添のとおり

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

（１）取組経緯

令和４年（2022年）３月に広陵町地域公共交通計画を策定し、めざすべき将来像の実現に向けて、当該計画に基づく事業実施に向け検討している。実施事業の評価を適切に行い、事業を実施する。

○広陵町における地域公共交通の課題

- ・公共交通の機能充実
- ・鉄道とバスとの接続（駅までのアクセス強化）
- ・広陵元気号のルートと運行便数
- ・各公共交通サービスの充実
- ・公共交通の利用促進策の検討
- ・地域との協働による公共交通利用促進の取組

○主な協議会等開催状況

令和４年１０月１７日 第38回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・住民ワークショップ等の実施報告について
- ・実証運行計画案について

令和５年１月25日 第39回広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・広陵町地域公共交通利便増進計画(案)について
- ・地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

令和 5 年 3 月 17 日 第 40 回 広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・ 広陵町地域公共交通利便増進計画(案)について
- ・ 令和 5 年度広陵町地域公共交通活性化協議会予算（案）について
- ・ 令和 5 年度広陵町地域公共交通活性化協議会事業計画（案）について

令和 5 年 5 月 19 日 第 41 回 広陵町地域公共交通活性化協議会開催

- ・ 令和 4 年度広陵町地域公共交通活性化協議会決算書(案)について
- ・ 令和 4 年度広陵町地域公共交通活性化協議会事業報告について
- ・ 広陵元気号再編について
- ・ 広陵町地域公共交通利便増進計画(案)について

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域公共交通確保維持事業	交通事業者	平成 28 年 (2016 年) 10 月以降	フ	広陵元気号の運行
地域公共交通調査事業（計画策定）	広陵町地域公共交通活性化協議会	令和 3 年度 (2021 年度)	策	広陵町地域公共交通計画策定
地域公共交通調査事業（計画策定）	広陵町地域公共交通活性化協議会	令和 4 年度 (2022 年度)	策	広陵町地域公共交通利便増進計画策定

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
公共交通基本計画推進支援事業 (奈良県)	広陵町地域公共交通活性化協議会	令和 4 年度 (2022 年度)	広陵町地域公共交通利便増進計画の策定
公共交通基本計画推進支援事業	広陵町	令和 5 年度 (2023 年度)	広陵元気号運行再編 AI 予約システムの導入（広陵町版）

(奈良県)			地域公共交通 MaaS 構築)
-------	--	--	-----------------

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
広陵元気号ポイントカード制度	広陵町 交通事業者 民間事業者	平成29年 (2017年) 11月以降	町内の民間事業者と連携し、広陵元気号に乗車した方にポイントを付与し、20回乗車すると協賛店舗(5店舗)で粗品と交換できる制度を実施している。 令和5年10月以降は協賛店舗を拡大予定。

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
なし		

4. 具体的取組に対する評価

○広陵元気号

令和4年度以降は、令和3年度に策定した広陵町地域公共交通計画に基づき、広陵元気号の利用目的別利用者（令和2年度の実績：通勤・通学（駅）：15,016人、商業施設：13,103人、病院：903人、公共施設：13,757人）及び運賃収入（令和2年度の実績：3,878,050円）の約20%増、収支率7%（直近年度の実績6%）をめざすもの。（広陵町地域公共交通計画 P56 参照）

令和4年10月から令和5年9月までの利用者を利用目的別に見ると、通勤・通学（駅）：15,788人、商業施設：17,993人、病院：817人、公共施設：16,797人）であり、運賃収入は4,278,260円、収支率は7.4%であり、目標を達成している項目はあるものの、更なる利用拡大のため、今後も引き続き利用促進の取組が必要である。

MM（モビリティ・マネジメント、以下同じ。）については小学校でのバスの乗り方教室を授業形式で実施している（5校実施）。また、継続実施している広陵元気号ポイントカード事業（商業施設との連携）、広陵元気号イラスト募集（応募数233作品）、地域健康教室（広陵元気塾）でのMM（政策間連携）など独自の取組が利用に対する意識の醸成に繋がっているものと考えます。

また、令和5年7月には、町内移動を担っていた北部支線・南部支線を予約型乗合バス「のーと広陵元気号」に移行し、9月末まで無償運行を実施したところ、再編前と比較し、20%以上の利用増となった。

○広陵町地域公共交通計画策定

「広陵町地域公共交通網形成計画」が令和3年度（2021年度）に計画期間が終了するため、最終評価及び検証を行い、その結果を踏まえ、「広陵町地域公共交通計画」を策定した。

本計画では、既存の公共交通の維持・確保に加え、新たに導入した自家用有償運送や、民間で運行している既存の病院送迎バス及び工業団地の誘致により導入が想定される企業バスをはじめとする地域の輸送資源などの多様な移送手段との連携を図り、「～笑顔で出かけられるまち～」を将来像として掲げ、実現をめざすこととしている。

○広陵町地域公共交通利便増進計画策定

令和３年度に策定した「広陵町地域公共交通計画」で定めた、地域公共交通ネットワーク及び実施事業をより具現化し、サービス設計を行うため、「広陵町地域公共交通利便増進計画」を策定した。

策定に当たっては、住民ワークショップ、既存交通事業者ヒアリング及び広陵町地域公共交通運行再編に伴う新モビリティ導入検討に係るサウンディング型市場調査を実施し、運行実施者及び利用者の両面の意見を基に、運行内容の検討を行った。

本計画では、広陵元気号中央幹線の運行再編及び予約型乗合バス「のーと広陵元気号」の導入について定め、より利便性の高い公共交通の運行をめざすものである。

○路線バス

路線バスもコミュニティバスと同様に、収支状況が厳しいものとなっており、運行費補助をしている高田新家線及び高田イオンモール線も深刻な状況となっている。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
運行内容の周知及びバス利用に関する環境整備	・バスロケーションシステム及び電子決済サービスの利用促進を行う。 ・運行事業者とともに地域へ出向き、MM等を実施する。 ・SNSなどを活用し、情報発信を行う。
運行費補助を行っている既存路線バスの利用促進	・奈良県地域交通改善協議会の協議対象路線であることから、交通事業者だけではなく県とも連携し、利用促進に努める。

広陵町地域公共交通活性化協議会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
【地域公共交通調査事業（計画策定事業）】 ダイヤやルートの確定に際して、ニーズを踏まえた運行内容となるよう沿線住民への説明や意見交換を実施するなど、地域公共交通の確保維持に努められており、より一層、バスロケーションシステムや電子決済サービスを導入するなど、地域公共交通の利用促進に努められたい。	【地域公共交通調査事業（計画策定事業）】 事業に対する評価に基づいて、当町の課題を明確にし、公共交通ネットワークの構築及び実施事業に反映している。 また、交通計画策定に伴いネットワーク図を作成し（別添のとおり）、めざすべき将来像を位置づけている。	【地域公共交通調査事業（計画策定事業）】 交通計画に定めた実施事業については、「広陵町利増進計画」でより具現化するとともに、計画で定めた指標については、毎年、達成状況を確認する。

2. アピールポイント、特に工夫した点など

・広陵元気号の運行については、前年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響による、利用減もあるが、南部支線の近鉄大和高田駅までの利用者が令和元年（2019年）10月の再編後、大幅に減少したため、令和2年（2020年）8月に実施した広陵元気号利用者アンケートの結果や、過去の利用実績を踏まえ、近鉄大和高田駅発着便の増便など、令和3年（2021年）10月から、南部支線の再編を実施した。

その際、ダイヤ及びルート確定に際し、利用者ニーズに即した運行内容となるよう、沿線住民への説明及び意見交換を実施した。

・令和3年度（2021年度）中には、当該年度をもって期間が終了となる「広陵町地域公共交通網形成計画」の最終評価及び検証を行い、多様化・高度化する住民ニーズや社会情勢に鑑みた公共交通のあり方を検討し、「広陵町地域公共交通計画」を策定した。

受託事業者の選定や、業者との打合せなどにオンライン会議（Zoomなど）を活用し、事業の円滑化を図った。

・車内消毒・抗菌加工の実施、電子決済サービス（PayPay）及びバスロケーションシステムを導入し、多様化する利用者のニーズに応えている。

(別添)

公共交通ネットワークイメージ図

